

CADCity Ver.10.00 機能アップマニュアル

1 - 1

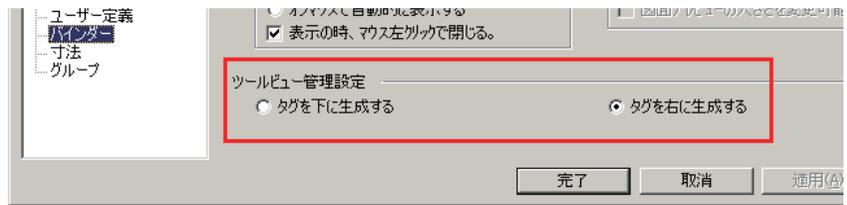
ツールビュー機能切替スイッチ

機能切替スイッチに、右側のタブを追加しました。

従来のタブは下側固定でしたが、右側に変更できる機能を追加しました。



下側と右側の切り替えは [補助 / システム設定 / バインダー] の [ツールビュー管理設定] で行います。



メニューの変更 1

1 - 2

プルダウンメニューの変更

新規コマンド追加に伴い、シンボル処理コマンドを編集メニューに集約しました。

従来のコマンド位置は以下の表のとおりです。

旧コマンドの位置				旧コマンドの移動先		
ファイル	シンボル保存	シンボルリスト	→	編集	シンボル処理	シンボルリスト
		シンボル検索	→			シンボル検索
編集	シンボル処理	SY説明	→	編集	シンボル処理	SY説明
		添字補正	→			添字補正
		SY置	→			SY置
		SY置	→			SY置

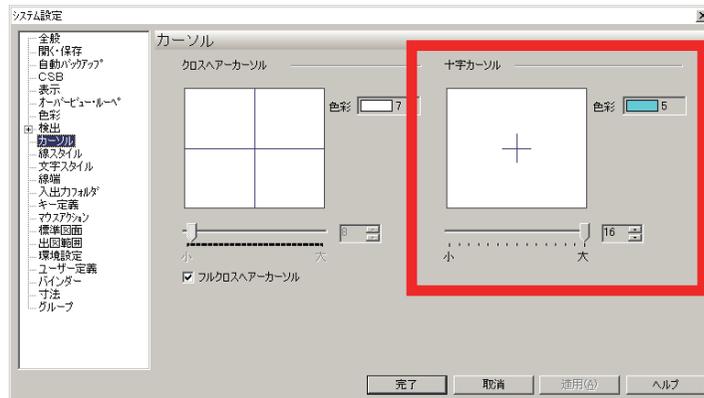
1 - 3

十字カーソル

十字カーソルの色彩と大きさを設定できるようにしました。

従来固定だった十字カーソルの色彩とサイズを任意に変更できるように変更しました。

変更は [補助 / システム設定 / カーソル] で行います。



前回コマンドリスト 1

1 - 4

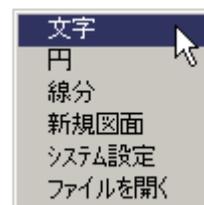
前回コマンドリスト

前回コマンドリストに以下のコマンドが記憶されるように変更しました。

マウスアクションによる前回コマンドリストに

- ・新規図面
- ・ファイルを開く
- ・部品配置
- ・システム設定

が記憶されるように変更しました。



2 - 1

部品配置

部品配置コマンドの「埋込部品」と「参照部品」の機能に対応しました。

従来は「埋込部品」と「参照部品」のボタンが網がけ表示となっていたのですが、本バージョンより「埋込部品」と「参照部品」ボタンの選択が可能となりました。



【埋込部品とは？】

部品ファイルから要素にグループ名称を付加する埋込図面として図面上に配置します。

【参照部品とは？】

指定の部品ファイルの形状をファイルを開く時に必ず参照する参照部品として図面上に配置します。

参照部品の含む図面は、開くときに必ずその部品を配置した時のファイルパスを参照します。

よって、そのパスに部品ファイルが無い場合、開こうとしてもエラーメッセージが表示され、その部品の部分だけが空欄となってしまいます。

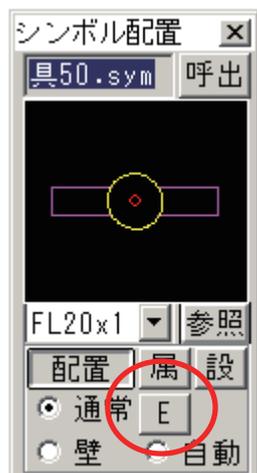
ユーザー間でデータの受け渡しをする際には、フォルダ構造にまで気をつける必要があります。

2-2

シンボル配置

情報付加したシンボルを参照したときに、その情報を GET し、これから作図するシンボルに同様の情報を付加して配置することが可能となりました。

シンボル配置パネルに下図の [E] ボタンが追加されました。



コマンド起動時に [E] ボタンはグレーの網がけボタンとなります。

操作手順

- ① シンボル配置コマンドを選択し、既に情報付加が実行されたシンボルを参照します。
- ② 既に情報を付加したシンボルを参照すると、網がけの [E] ボタンが選択可能となります。
- ③ [E] ボタンをオンの状態でシンボルを配置すると、①で GET した情報を付加してシンボルが配置されます。
[E] ボタンをオフの状態でシンボルを配置すると、①で GET したシンボルに情報を付加しない状態で配置します。(従来の配置機能です)

※詳細はオンラインマニュアルの「ファイル / シンボル配置」をご参照ください。

2 - 3

DXF/DWG 入出力

変換機能を拡張しました。
AutoCAD2005、2006 のデータ入出力に対応しました。

レイヤーに線スタイルが設定されている場合、本システムと AutoCAD 間で入出力可能となりました。線スタイルとは、色彩、線種、線幅です。

【DXF/DWG 入力 - 変換条件設定画面】

要素属性変換表

全般 | 線種 | 寸法 | 色 | レイヤー

塗りつぶし処理設定 ブロックをシンボルに入力する。

未定義の線種が入力されたら、警告BOXを表示する。

レイヤー名に「ZUWAKU/SYUGAKU」或いは、「図枠/朱書き」があれば、図枠/朱書きレイヤーに入力する。

本システムにないフォントの代替フォント DA ゴシック

データ読み込み設定

カレント空間 モデル空間

レイヤー

要素が含まれてないレイヤーは読み込まない。(レイヤーを詰める)

非表示レイヤーを表示するように入力する。

DEFポイントレイヤーを読み込まないようにする。

レイヤ線スタイルを読み込む。

【DXF/DWG 出力 - 変換条件設定画面】

要素属性変換表

全般 | 線種 | 線端 | 寸法 | 色 | レイヤー

レイヤー制御

レイヤー名に漢字を使用する

レイヤー0に要素を出力しないようにする

要素があるレイヤーまでを全て出力する

要素があるレイヤーのみ出力する

表示中レイヤーの要素のみ出力する

レイヤ線スタイルを出力する

青枠内、...

図枠/朱書

0

ZUWAH

図枠/...

行末

CR_LF

CR (Ma



線幅の双方向間伝達は、AutoCAD2000 以上からとなります。

2 - 4

Jw_cad 入力

対応バージョンがアップしました。

Jw_cad の入力対応バージョンが Ver4. 20 にアップしました。

一括出力 1

2 - 5

一括出力

HDD 図面を一括出力する際に、シート名で出力できるようにしました。

バインダー図面をシート名で出力するチェックボックスを追加しました。



オンの時

選択したファイルに従属している全ての図面に保存しているシート表示名を出力ファイル名として使用します。

オフの時

従来通り、ファイルの後ろに番号をつけて出力します。

「シート名で出力する」がオンの時、シート名に統一名称が存在する場合には以下の警告ダイアログボックスが表示されます。



無条件上書き : 上書きをします。

シリアル番号付加 : 出力するファイル名の後ろに番号をつけて出力します。

変換中止 : 変換を中止します。

※警告ダイアログボックスは一括変換中 1 回だけ表示されます。

2 - 6

図面文字列検索

検索条件を追加しました。

アルファベット、カタカナ、数字を全角半角の区別無く検索できるように変更しました。



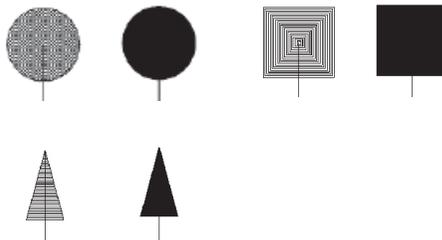
出図 1

2 - 7

出図

線端の黒丸・塗り四角・塗り矢印の出図方法を変更しました。

黒丸・塗り四角・塗り矢印を塗潰しで出力するように変更しました。
メーカードライバ及び標準ドライバの HPGL の場合にのみ有効となります。



カタログ出力 / 連続出力 1

2 - 8

カタログ出力 / 連続出力

512 枚の出力制限を無制限に変更しました。

ファイルの出力制限をなくしました。

3 - 1

転送

全ての文字を指定のフォントで転送する機能を追加しました。

従来はベクトルフォントのみをフォント変更の対象としていましたが、本バージョンより全てのフォントを対象とするように変更しました。



フォントの選択候補に「DAゴシック」を追加し、TrueType フォントをベクトルフォントに変換できるようになりました。



貼り付け 1

3 - 2

貼り付け

表モードの場合、エクセルの斜め罫線を要素化して入力するようにしました。

表モードのチェックボックスをオンに設定した場合、斜め罫線を要素として貼り付けます。

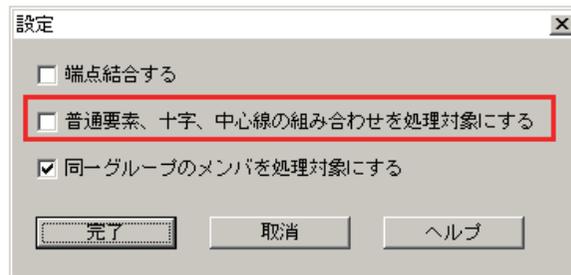


3 - 3

重複線消去

中心線を普通要素として扱うように変更しました。

設定ダイアログボックスの改造により、別コマンドで作図された中心線どうしの重複がある場合、処理対象とする、しないの選択が可能となりました。また、従来の端点結合する、しないの項目もチェックボックスに変更しました。



SY分解 / SY消去 1

3 - 4

シンボル分解 / シンボル消去

ファイル / シンボル配置コマンド内の「分解」「消去」機能を単独のコマンドにしました。

編集 / シンボル処理に「シンボル分解」「シンボル消去」コマンドを新規追加しました。

各コマンドを選択すると、シンボル配置コマンドが分解・消去のモードで立ち上がります。操作手順はシンボル配置コマンドの分解・消去と同様です。



4 - 1

楕円

円弧近似の楕円・楕円弧を作図できる機能を追加しました。

楕円 CSB に「円弧近似」ボタンを追加し、円弧近似の楕円・楕円弧の作図を可能にしました。



円弧近似ボタンをオンにすると、分割数の欄が入力可能となります。分割数には「4～100」の数値を入力します。

4 - 2

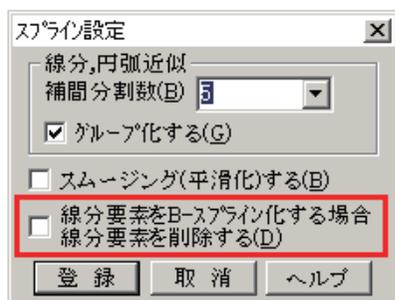
スプライン

外部から取り込んだ近似線分群などを、Bスプライン化する機能を追加しました。

スプライン CSB に「スプライン化」ボタンを追加しました。



設定ダイアログボックス内に、指定した線分要素をBスプライン要素に変換後、元の線分要素を削除するかしないかの選択チェックボックスが追加されました。



4 - 3

オフセット

要素指定方法に「中指定」を追加しました。



操作のプルダウンに「中指定」を追加し、CSBに「中指定」ボタンを追加しました。

4 - 4

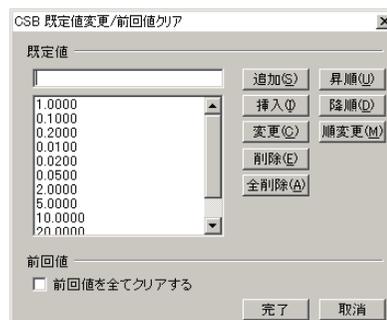
寸法コマンド全般

倍率の既定値変更・前回値クリアができるように変更しました。

従来、倍率の既定値は固定でしたが、編集が出来るように変更しました。倍率の数値入力欄を右クリックすると下図のダイアログボックスが表示されます。



右クリック



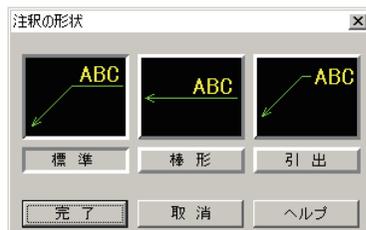
CSBの既定値変更/前回値クリアの設定ダイアログボックスは、従来から他コマンドで表示されていたものと同様です。

4 - 5

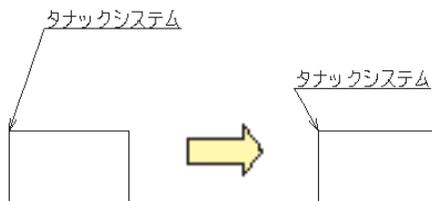
注釈 2

新たに注釈 2 というコマンドを追加しました。
本コマンドで作図した注釈はグループで作図され、変更も容易に行うことができます。

注釈をグループで作成します。
また注釈の形状も 3 種類から選択することができます。



変更機能により、注釈を指定することで位置変更も簡単に行うことができます。



※詳しい操作方法はオンラインヘルプを参照してください。

4 - 6

文字検索

文字検索コマンドに SXF の禁則文字をチェックして置換する機能を追加しました。



「1. SXF 禁則」 ボタンをオンにして検索を開始すると、SXF で禁止されている文字列を自動的に認識し、変換定義された文字列に置き換えます。

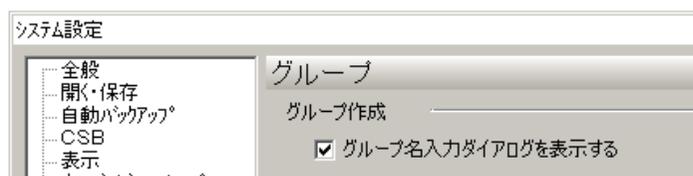
他社からもらったデータ及び、自社で作図したデータは、このコマンドを実行してから SXF 出力するとより正確なデータとして出力が可能となります。

5 - 1

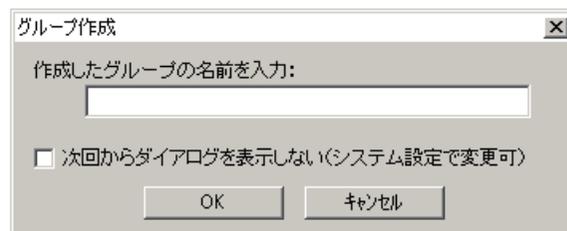
グループ名称

グループに任意の名称をつけることが出来るようになりました。

グループ保存時に任意の名称を付加することができるようになりました。
グループ名をつける、つけないの選択は [補助 / システム設定 / グループ] の
グループ作成で行います。
初期値はグループ名称をつけない設定になっています。



グループ名入力ダイアログを表示するにチェックが入っている場合、グループ作成コマンドで要素選択を実行すると、下図のダイアログボックスが表示されます。



5 - 2

グループ編集

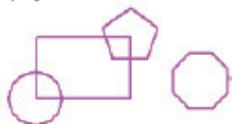
グループ編集 CSB に「階層解除」ボタンが追加されました。

指定したグループから単一要素または指定グループを解除します。



①すでに配置されたグループを指定します。

グループ化された要素にマウスを近づけると、要素が赤色ハイライトします。



②削除したいグループ内の要素を指定します。

③指定された要素が赤色表示され、その他の要素は元の色に戻ります。

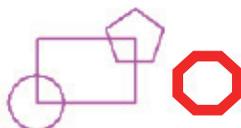
確認のY/Nボタンが表示されます。

指定した要素のみ解除する場合はマウス左ボタンをクリックしてYにします。

マウス右ボタンをクリックしてNにするとサブグループがハイライトします。

④Nを続けると次のサブグループがハイライトします。

最上位階層のグループまで指定されるとグループ全体を解除します。



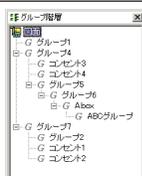
⑤マウス左ボタンをクリックして処理を終了します。

グループ操作 1

5 - 3

グループ操作

グループ操作ダイアログボックスの位置とサイズを保持するようにしました。



ダイアログボックスの位置とサイズを保持します。

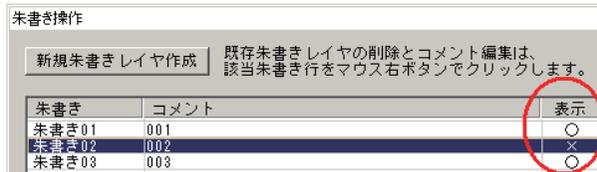
また、SHIFT+ESC でコマンドキャンセルが可能となりました。

5 - 4

朱書き操作

朱書きレイヤーごとの表示オン / オフ設定が可能となりました。

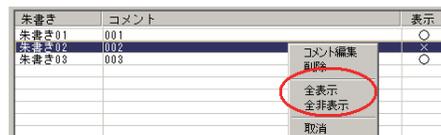
朱書き操作のダイアログボックスが以下のように変更され、各レイヤーごとにオン / オフの設定が可能となりました。



朱書きコメント作図時に、通常要素の端交点を検出できるようにしました。
各朱書きレイヤーのプレビュー機能を追加しました。



右クリックで表示されるポップアップメニューに「全表示」「全非表示」を追加しました。



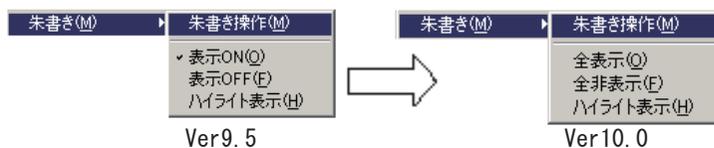
朱書きメニュー 1

5 - 5

朱書きメニュー

朱書き操作の機能アップに伴いメニューを以下のように変更しました。

個別対応のため表示ON/OFFは全表示/全非表示に変更しました。



5 - 6

マウスアクション

マウスアクション使用時に、メニューが表示されるまでの時間を設定できるようにしました。

[補助 / システム設定 / マウスアクション] の表示までの時間で、設定します。



階層表示 1

5 - 7

階層表示

部品配置コマンドが埋込部品・参照部品に対応したことに伴い、階層表示コマンドが新規追加されました。



階層表示コマンドは部品配置で参照部品、埋込部品として配置された図面に使用されている参照部品と埋込部品をツリー型の一覧で表示します。通常部品は表示されません。

要素計測 1

5 - 8

要素計測

グループを計測した時にグループ名も表示するようにしました。

【Ver9.5】

```
[メジャー要素数] = 2
[線分] = 0
[円弧] = 0
[点] = 0
[円] = 1
[文字] = 0
[楕円] = 0
[楕円弧] = 0
[グループ] = 1
[寸法グループ] = 0
```

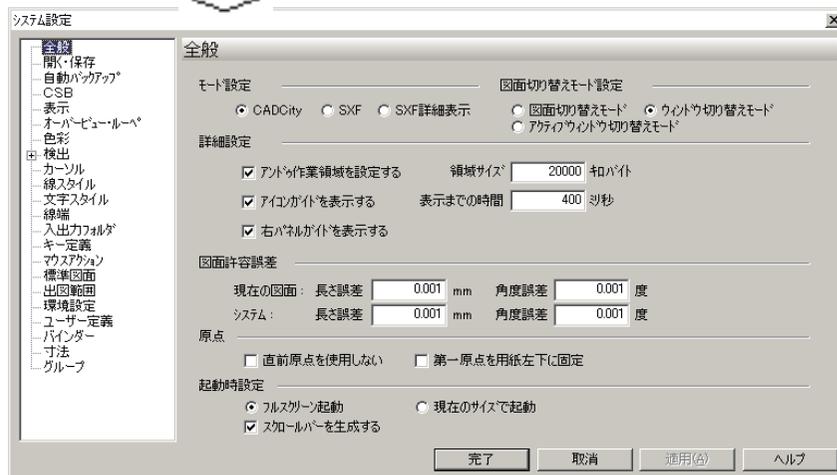
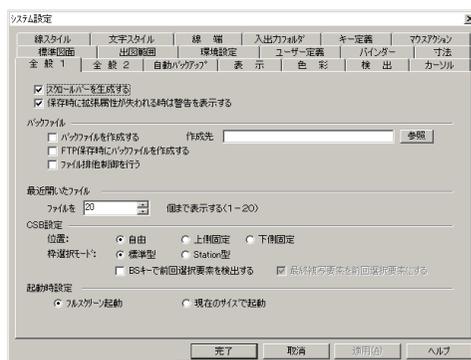
【Ver10.0】

```
[名称] = A要素
[メジャー要素数] = 2
[線分] = 0
[円弧] = 0
[点] = 0
[円] = 1
[文字] = 0
[楕円] = 0
[楕円弧] = 0
[グループ] = 1
[寸法グループ] = 0
```

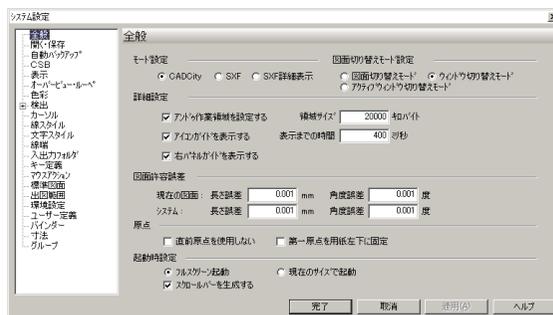
5 - 9

システム設定全般

タブ型メニューから階層ツリー構造のメニュー方式に変更しました。
合わせて項目も追加整理しました。

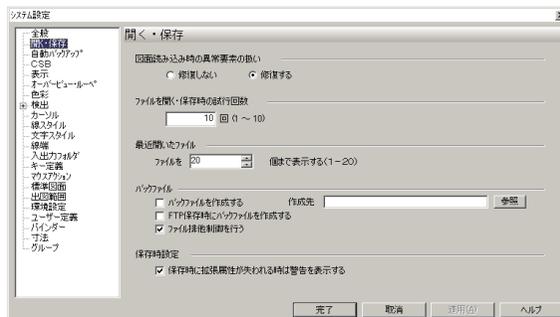


システム設定
全般



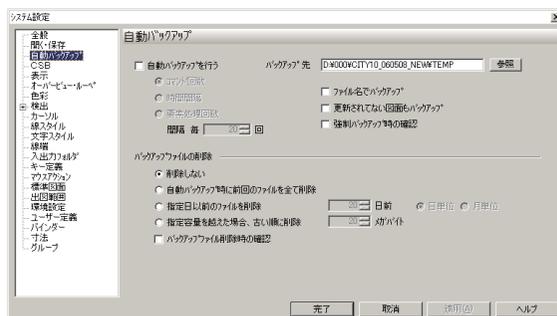
従来版の「全般 1」「全般 2」を整理しています。
項目によっては新たにメニューを追加しています。

システム設定
開く・保存



新規項目です。従来版の「全般 / バックファイル、最近開いたファイル、保存時に拡張属性が～」 「全般 2 / ファイルを開く・保存時の試行回数、図面読込時の異常要素扱い」の項目を配置。

システム設定
自動バックアップ

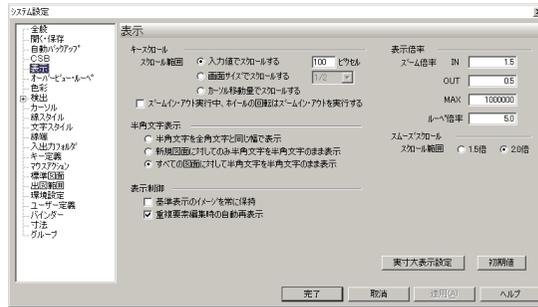


システム設定
CSB



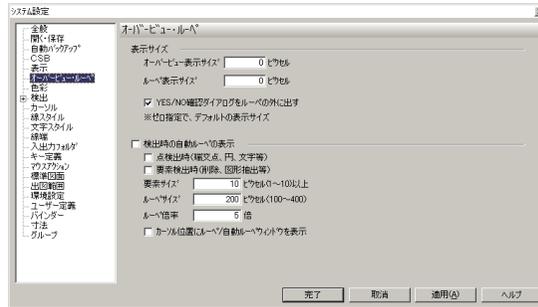
新規項目です。従来版の「全般 / CSB 選択」「検出 / 選択 CSB」を配置しています。

システム設定
表示



従来版の「表示 / オーバービュー・ルーペ」を別項目に移動。

システム設定
オーバービュー・ルーペ



従来版の「表示 / オーバービュー・ルーペ」を新項目で追加。

システム設定
色彩



従来版に「検出 / グリッド」を配置。

システム設定
検出



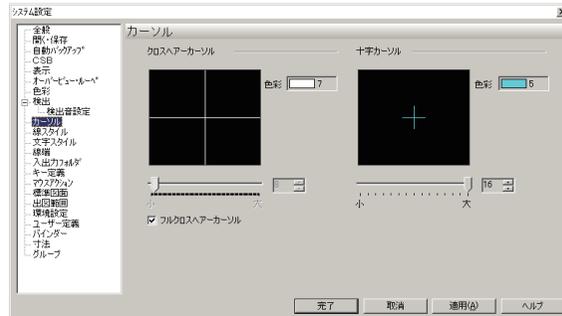
従来版の「グリッド」は色彩へ、「自動ルーペ」はオーバービュー・ルーペへ、「選択CSB」はCSBへ移動。

システム設定
検出音設定



検出のサブメニューとして「検出音設定」を配置。
サンプルの wav ファイルは ¥SYSINFO にあります。

システム設定
カーソル



新機能として、十字カーソルのサイズ指定を新規に追加しました。

システム設定
表示



従来と変更ありません。

システム設定
文字スタイル



従来と変更ありません。

システム設定
標準図面



従来と変更ありません。

システム設定
出図範囲



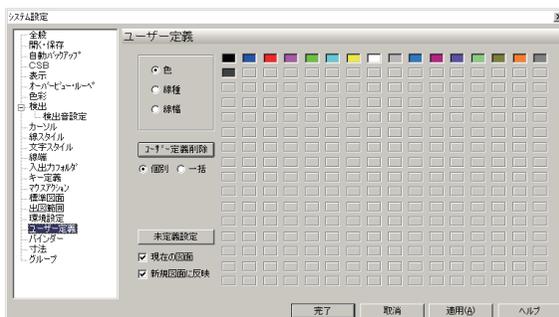
従来と変更ありません。

システム設定
環境設定



従来と変更ありません。

システム設定
ユーザー定義



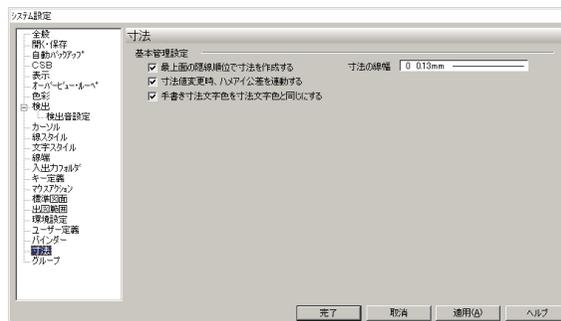
従来と変更ありません。

システム設定
バインダー



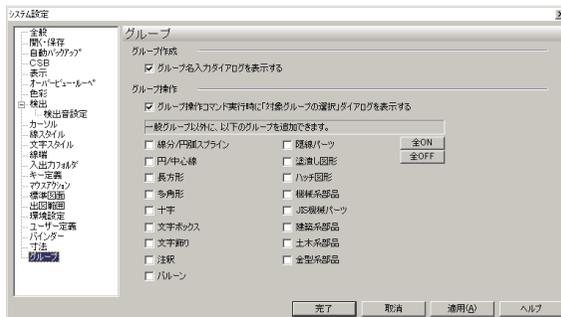
従来と変更ありません。

システム設定
寸法



従来と変更ありません。

システム設定
グループ



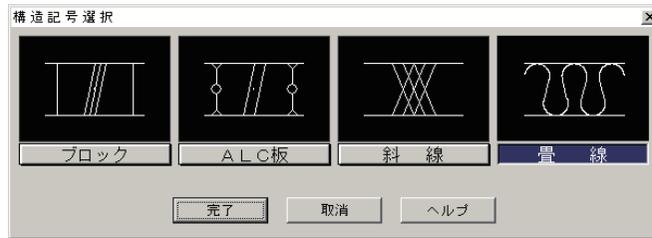
新機能のグループ名称入力のチェックボックスを追加しました。
グループ操作の「対象グループの選択」ダイアログボックスオン/オフの設定
及び「対象グループ選択」設定を追加しました。

6 - 1

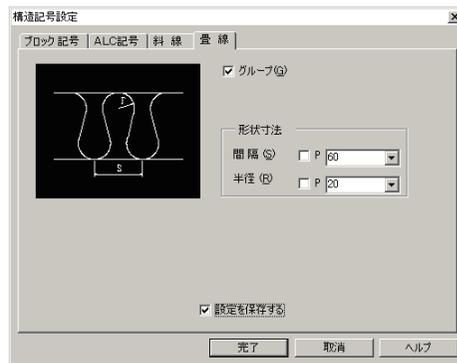
構造記号

構造記号に畳形状を追加しました。

構造記号の種類に「畳線」を追加しました。



設定ダイアログボックスにも畳線の設定が追加されました。



仕上線 1

6 - 2

仕上線

要素指定方法に「中指定」を追加しました。



操作のプルダウンに「中指定」を追加し、CSBに「中指定」ボタンを追加しました。

7-1

情報付加

注記ファイルを3階層で作図する機能を追加しました。

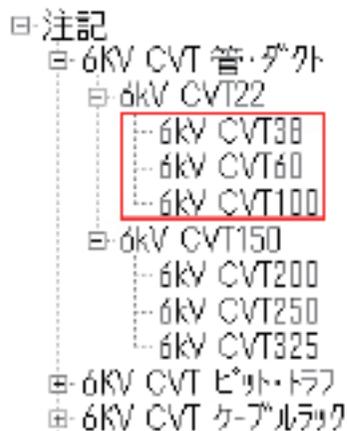
従来注記ファイルは2階層までと固定でしたが、作成方法により2階層と3階層が可能となりました。

【3階層の注記ファイルの場合】

#の直下の文字が、注記の下のフォルダ名称です。

##の直下の文字が2階層目のフォルダ名称です。

2 階層目のフォルダ名称の直下がフォルダ内の文字列です。



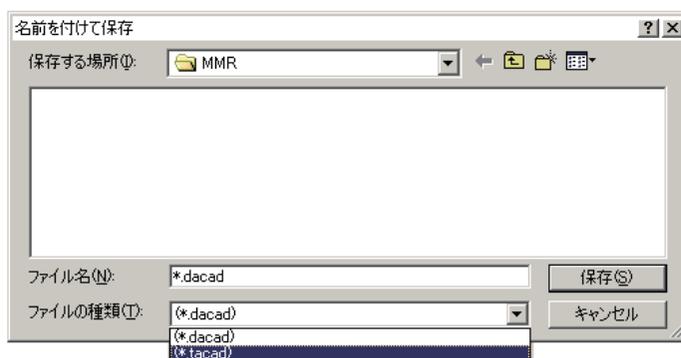
新しくフォルダを増やしたい場合は、追加したい場所に#や#を入力・改行して、文字列を追加して行きます。

7 - 2

情報出力

EstimaCity の代価表用フォーマット形式に対応しました。

代価表に対応したファイルの拡張子は、***. tacad です。



代価用フォーマット (***. tacad) ファイルの、「開く・ファイル合成」も可能です。

7-3

情報作成

見積作成の為にCAD上で作図した配線（配管）・シンボル・立上記号に付加する情報を作成します。情報作成コマンドには以下の2つの機能があります。

ファイル作成編集：情報ファイルの新規作成や既存情報ファイルの編集を行います。

ファイル合成分割：作成・保存した情報ファイルを分割または合成します。

コマンドを実行すると下図のようにEstimaCityの材料マスタの場所を指定するダイアログボックスが表示されます。



EstimaCityの材料マスタが無い場合は「キャンセル」をクリックします。

下図のウィンドウが表示されますので、ファイルの作成・合成・分割を行います。



詳しくはオンラインマニュアルの電設 / Estima 集計 / 情報作成を参照してください。

8 - 1

回路接続線

CSB/ 間隔入力欄の入力モードをプロットモード固定に変更しました。

CSB/ 間隔

シンボル一覧ダイアログボックスの角にマウスカursorを当てると、形状が矢印に変更します。



例えば、縮尺 1/10 で作図している図面の場合、「5」と入力すればプロットモードの 5mm で作図されます。(実寸は 50mm)

縮尺 1/100 で作図している図面の場合、「5」と入力すればプロットモードの 5mm で作図されます。(実寸は 500mm)

設定 DLB

塗潰円半径の入力モードを従来のリアルモードからプロットモード固定に変更しました。



8-2

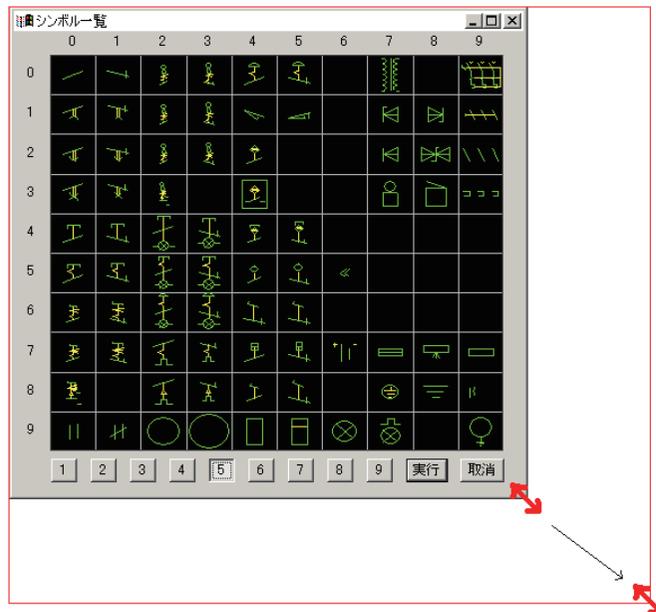
シンボル配置

シンボル配置一覧の大きさが変更可能となりました。

シンボル配置 CSB を大幅に変更し、登録されているシンボル個々のデバイス文字の情報を保存できるようにしました。

更に、従来は 1/1 の図面を基準としていましたが、縮尺をもった図面に対しても、作図が可能となりました。

シンボル一覧ダイアログボックスの角にマウスカーソルを当てると、形状が矢印印に変更します。

シンボル配置
一覧

形状が矢印形状に変更したら、マウス左ボタンを押したまま、目的の位置までマウスを移動させます。

位置が決定したら、マウス左ボタンを離します。

シンボル配置 CSB シンボル配置 CSB に新たにボタンを追加しました。



縮尺のある図面に対してシンボルを作図する時に、倍率を指定します。
例えば縮尺が 1/10 の図面を作成する場合、この倍率には「10」と入力します。
縮尺と同じ数字を入力することで、縮尺が変更しても、1/1 で作図した時と同じ大きさでシンボルを作図することができます。

7.設定

作図するデバイス文字のスタイルに関する設定を設けました。
設定ボタンをクリックすると以下のダイアログボックスが表示されます。

デバイス文字

フォント DAゴシック

色彩 

高さ 12.00 mm

縦横比 0.80 倍

間隔 0.00 mm

ホールド イ別々

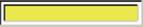
注意) 入力はプロットモードです。

シンボルのデバイス文字の文字スタイルを設定します。

シンボルを作図する度に、そのシンボルのデバイス文字の文字スタイルは設定ファイルに保存されます。

その他文字

フォント MS Pゴシック

色彩 

高さ 2.50 mm

縦横比 0.80 倍

間隔 0.00 mm

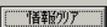
ホールド イ別々

注意) 入力はプロットモードです。

シンボルのデバイス文字の文字スタイルを設定します。

シンボルを作図するたびに、そのシンボルのデバイス文字以外の文字スタイルは設定ファイルに保存されます。

情報クリア



文字スタイル情報を全てクリアします。

シンボルのデバイス文字の文字スタイルを設定します。

デバイス文字や、その他文字の保存された文字スタイル情報を消去し、デフォルトに戻します。

8 - 3

デバイス文字

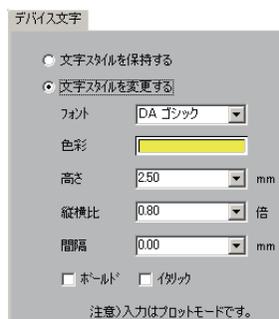
CSBに設定ボタンを追加し、デバイス文字等の文字スタイルを任意に指定できるようにしました。

CSB/ 設定

CSBに「設定」ボタンを追加し、デバイス文字やデバイス文字以外の文字スタイルを設定できるようにしました。



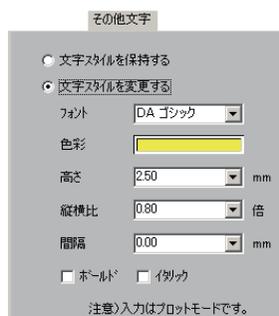
設定ボタンをクリックすると下図のダイアログボックスが表示されます。



デバイス文字に関する文字スタイルの設定を行います。

「文字スタイルを保持する」にチェックがついている場合、既に作図されている文字のスタイルを変更することなく保持します。

「文字スタイルを変更する」にチェックがついている場合、既に作図されている文字スタイルを無視し、本設定DLBで指定した文字スタイルで作図します。



デバイス文字以外の文字列の文字スタイルを設定します。

「文字スタイルを保持する」にチェックがついている場合、既に作図されている文字のスタイルを変更することなく保持します。

「文字スタイルを変更する」にチェックがついている場合、既に作図されている文字スタイルを無視し、本設定DLBで指定した文字スタイルで作図します。

8 - 4

線番手動

CSB に設定ボタンを追加し、線番号の文字スタイルを任意に指定できるようにしました。

CSB/ 設定



CSB に設定ボタンを追加し、文字スタイルの設定ができる機能を追加しました。設定ダイアログボックスの数値入力欄は全て「プロットモード」です。

従来は全てリアルモードで作図されていましたが、本バージョンより、図面の縮尺を変更しても文字をプロットモードで配置するため、常に同じ大きさで表示されます。



インストール直後は左図のように設定されています。

線番自動 1

8 - 5

線番自動

CSB に設定ボタンを追加し、線番号の文字スタイルを任意に指定できるようにしました。

CSB/ 設定



CSB に設定ボタンを追加し、文字スタイルの設定ができる機能を追加しました。設定ダイアログボックスの数値入力欄は全て「プロットモード」です。

従来は全てリアルモードで作図されていましたが、本バージョンより、図面の縮尺を変更しても文字をプロットモードで配置するため、常に同じ大きさで表示されます。



インストール直後は左図のように設定されています。

8 - 6

端子文字

CSB に設定ボタンを追加し、端子文字の文字スタイルを任意に指定できるようにしました。

CSB/ 設定



CSB に「設定」ボタンを追加し、作図される端子文字の文字スタイルを任意に指定できるようにしました。

設定ボタンをクリックすると、下図のダイアログボックスが表示されます。



開いている図面の縮尺に依存しないよう、文字は全てプロットモードで指定します。

交点変更 1

8 - 7

交点変更

縮尺をもつ図面に対応するために、半径の入力値は全てプロットモードの固定に変更しました。



入力をプロットモード固定にすることで、縮尺の違う図面でも同じ交点の大きさで作図することが容易になります。

8 - 8

クロスレファレンス

CSBに設定ボタンを追加し、来先、行き先の文字列や作図される表の文字スタイルを指定できるようにしました。



追加され「設定」ボタンをクリックすると下図の設定ダイアログボックスが表示されます。

設定ダイアログボックスで、文字スタイルを任意に指定することができます。



開いている図面の縮尺に依存しないよう、文字は全てプロットモードで指定します。

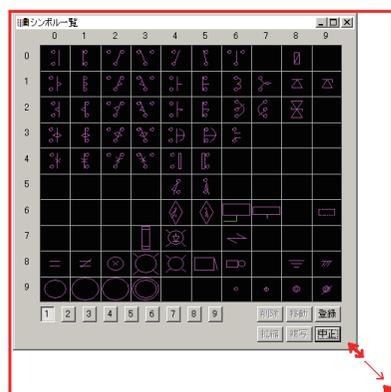
シンボル保存 1

8 - 9

シンボル保存

シンボラー一覧ダイアログボックスの大きさが変更可能となりました。

シンボラー一覧



形状が矢印形状に変更したら、マウス左ボタンを押したまま、目的の位置までマウスを移動させます。

位置が決定したら、マウス左ボタンを離します。

9 - 1

CAD 製図基準

工種選択で他の図面種別 / 工種データを複写できるようにしました。

複写のアイコンが追加されました。



10 - 1

技術計算

電灯幹線計算書と動力幹線計算書（平成 14 年版）の EXCEL 出力を可能にしました。

ファイルメニューに「EXCEL へ出力」のメニューが追加されました。
 「EXCEL へ出力」を選択すると、Excel が起動し、印刷イメージがファイルとして表示されます。

電灯幹線計算書

1	電灯幹線計算書															2004年4月1日	1頁	
2	送電名称 平成14年版 サンプル															送電者 T&M&C system		
3	幹線番号 送電名称	電圧 [kV]	幹線計算 用電圧 [kV]	系統 記号	系統 記号	送電容量 [kVA]	送電容量 [kVA]	送電容量 [kVA]										
4	L-40-1	1.8 3Φ	150/200	300	---	15.0												
6		1.8 3Φ	150/200		□-	5	L-41	30	EW-CRT 14	4.34 kVA	1	49.4	5	49.4	5.9	(1.7)	5.5	10
8		1.8 3Φ	150/200		□-	9	L-1	150	EW-CRT 100	15.36 kVA	1	158.5	5	158.5	19	(11.29)	14	110

動力幹線計算書

1	動力幹線計算書															2004年4月1日	1頁		
2	送電名称 平成14年版 サンプル															送電者 T&M&C system			
3	幹線番号 送電名称	電圧 [kV]	幹線計算 用電圧 [kV]	系統 記号	系統 記号	送電容量 [kVA]	送電容量 [kVA]	送電容量 [kVA]											
4	P-40-1	1.8 3Φ	300	300	30	P-40-1	300	44.8 kVA	1	510	EW-CRT 80	1	119	6	(36.9)	38		210	
6		1.8 3Φ	300		150	30	P-1	110	31 kVA	1	55	EW-CRT 80	1	520	6	(19.8)	14		147
8		1.8 3Φ	300		90	15	P-5	15	7.4 kVA	1	40	EW-CRT 14	1	40	6	(3.8)	5.2		58

11 - 1

平成 16 年版姿図

姿図集に新たに「平成 16 年版」を追加しました。

データ集インストールの「コンポーネントの選択」画面で「部品 / 照明器具姿図」を選択すると「平成 5 年、9 年、13 年、16 年版」の姿図集がインストールされます。

<input type="checkbox"/> 部品/結線図サンプルデータ	0 K
<input checked="" type="checkbox"/> 部品/照明器具姿図	38188 K

レイヤースタイル 1

11 - 2

レイヤースタイル

農林水産省 電気設備電子化データの作成要領（平成 17 年版）を追加しました。

データ集インストールの「コンポーネントの選択」画面に「レイヤースタイル_農水省_電気設備電子化図面」の項目が追加されました。

チェックをつけることで、農林水産省 電気設備電子化データの作成要領（平成 17 年版）のレイヤースタイルをインストールすることができます。

<input type="checkbox"/> レイヤースタイル_国交省_土木CAD製図基準_平	0 K
<input type="checkbox"/> レイヤースタイル_国交省_電気設備CAD製図基・	0 K
<input checked="" type="checkbox"/> レイヤースタイル_農水省_電気設備電子化図面	34 K